

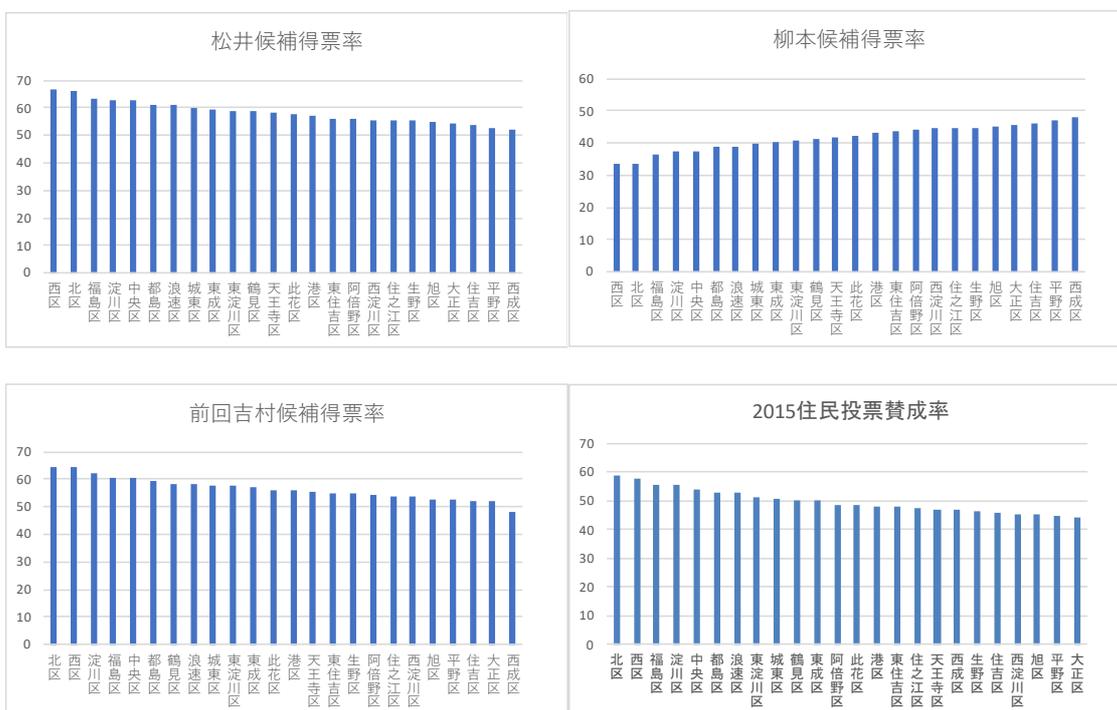
「豊かな大阪をつくる」学者の会シンポジウム：
統一地方選の結果から見た大阪の現状と課題
～大阪都=大阪市廃止のリスクを見据えて～

選挙戦略の困難：民意の代表か権利の移譲か

薬師院仁志（帝塚山学院大学）

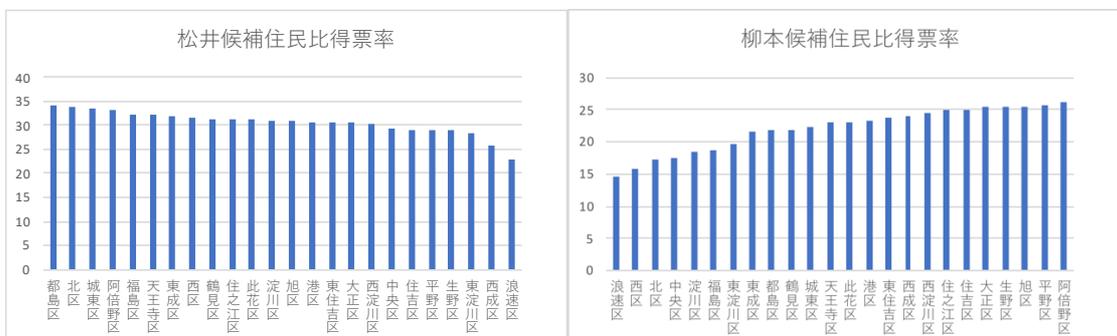
2019年5月12日（於 NSビル）

1. 投票結果の分析



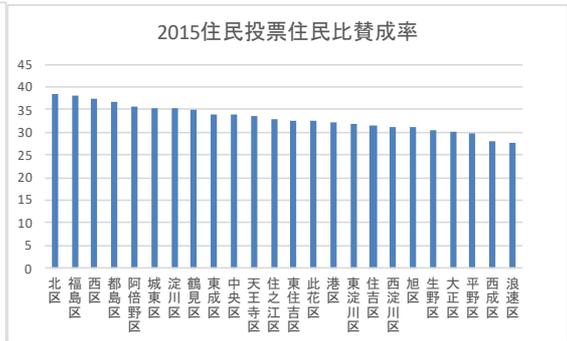
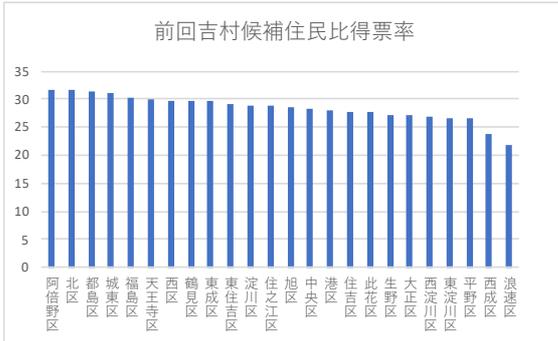
※大阪維新の会に対する支持率の地域差は明らか

西、北、福島、淀川、中央、都島で常に高い

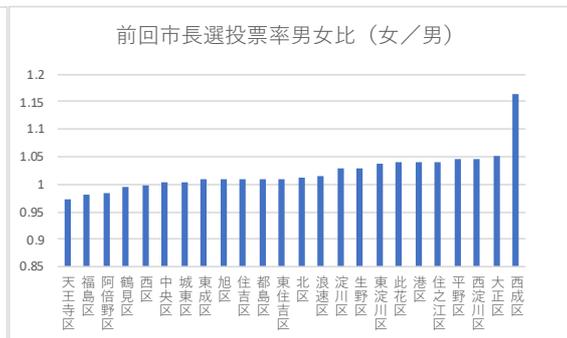
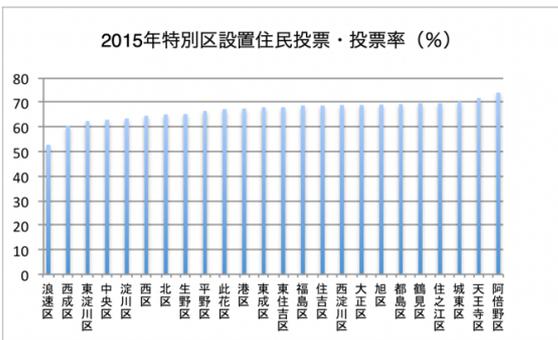
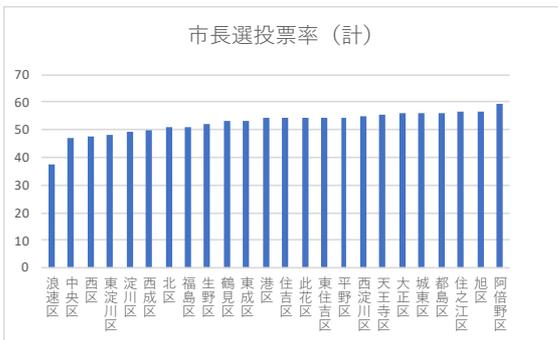


※柳本候補の得票率は住民比得票率や投票率の傾向と一致＝民意の濃淡を反映

松井候補＝低投票率の西、淀川、中央、東淀川、浪速で全体状況以上の得票率



2. 各別投票率



※概して投票率の低い地域において維新支持率が高い（固定的な地域差あり）
 （必ずしも高齢者の多い区が高いのではない、また都島区は例外的）
 ※投票率は関心を持つ人の割合であると同時に、全体的な関心度の指標（濃度）

3. 各区の特徴（地域差）

大阪市『大阪市の推計人口年報(平成 29 年)』より

表6-7 社会増減率、転入率及び転出率(上位7区)

順位	社会増減率		転入率		転出率	
	区名	(%)	区名	(%)	区名	(%)
1	北区	24.3	浪速区	154.8	浪速区	133.4
2	浪速区	19.9	中央区	134.1	中央区	123.5
3	東成区	17.6	北区	114.0	西区	95.4
4	西区	16.1	西区	113.5	北区	88.1
5	西成区	14.8	天王寺区	90.3	天王寺区	76.3
6	天王寺区	11.3	東成区	88.1	福島区	72.0
7	福島区	11.3	福島区	83.6	淀川区	71.3

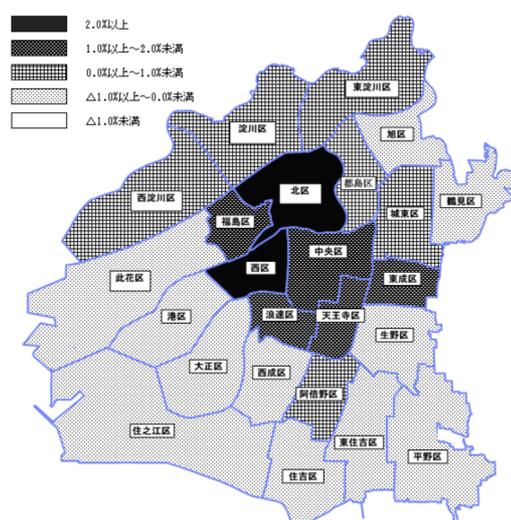
社会増減率、転入率、転出率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰（パーミル）である。

表7-4 年齢（3区分）別人口割合（上位7区）

順位	0～14歳		15歳～64歳		65歳以上	
	区名	割合 (%)	区名	割合 (%)	区名	割合 (%)
1	鶴見区	15.2	中央区	74.5	西成区	39.9
2	天王寺区	13.0	浪速区	74.1	生野区	31.9
3	阿倍野区	12.5	西区	72.6	大正区	31.1
4	西淀川区	12.3	北区	71.9	旭区	30.0
5	城東区	12.3	福島区	68.0	住之江区	30.0
6	福島区	11.8	天王寺区	66.9	東住吉区	29.5
7	平野区	11.8	淀川区	66.6	平野区	28.4

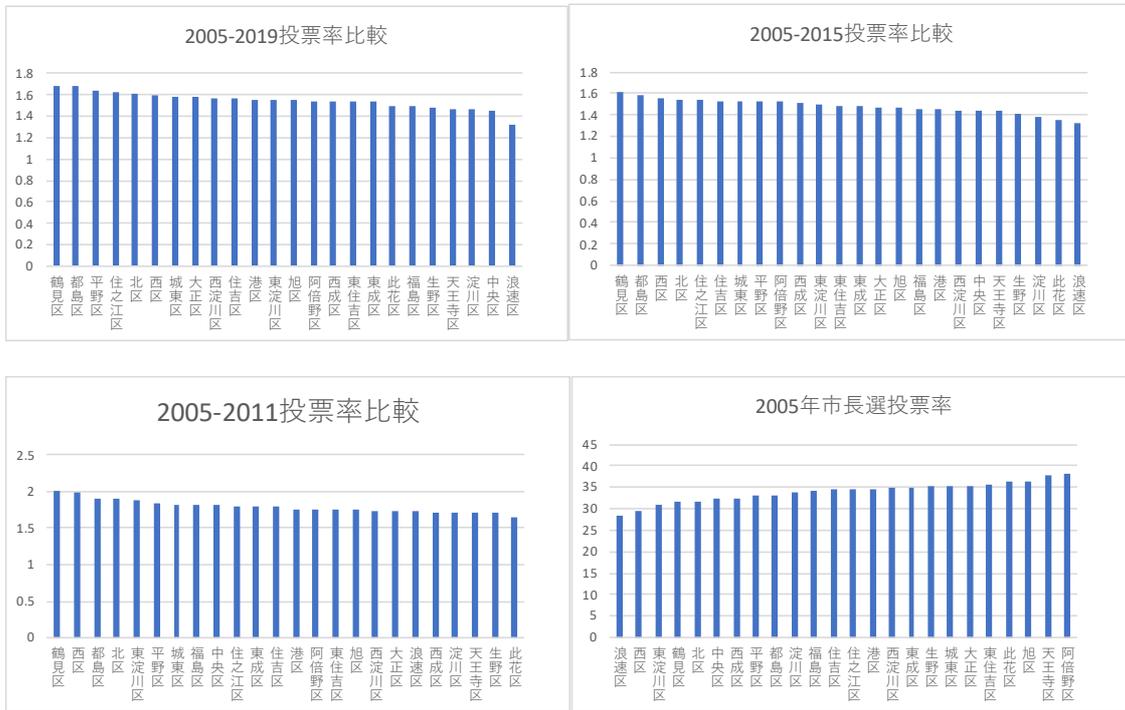
平成29年10月1日現在の人口に対する割合である。

図2 区別人口増減率の分布（平成28年～29年）



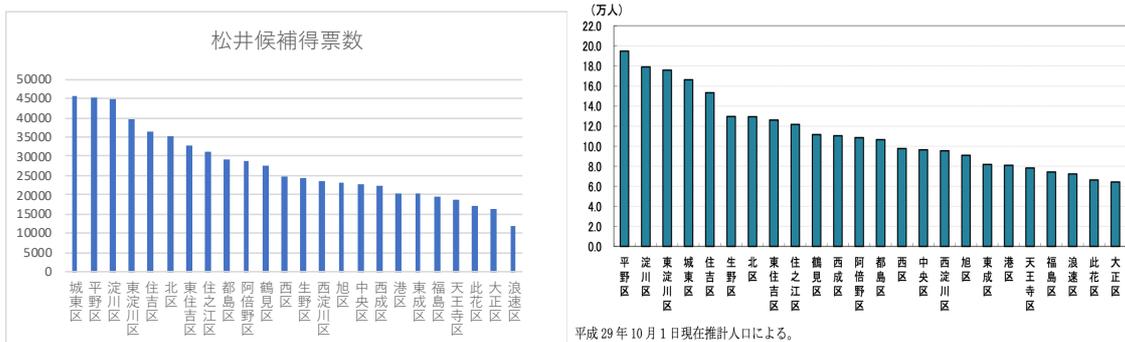
1世帯当たり世帯人員(人)			
上位5区		下位5区	
鶴見区	2.37	浪速区	1.45
大正区	2.18	中央区	1.57
西淀川区	2.17	西成区	1.59
平野区	2.15	北区	1.66
東住吉区	2.15	西区	1.76

4. 投票率の変化



※概して鶴見、都島、西、北、(城東)の上昇が見られる(平野・住之江も)
(維新票が相対的に多い地域に伸び、また中央・浪速は2011年の上昇が目立つ)

5. 票の絶対数と人口



大阪市『大阪市の推計人口年報(平成 29 年)』より

※城東区は人口に比べて明らかに維新票を支えている(人口多×投票率増)。

6. 選挙戦略の困難：仮説

※維新票＝「民意(大阪に対する意見)」を受けているのではない

全体が匿名化(個別化)＝民意の反映では当選できない(宣伝戦略で動く)